1970
2 月 号
No. 195
編集兼発行
鮫 川 村
総 務 課
塙町 佐藤印刷所

広報 さめがわ

2月の人口と世帯
人口 6.945(＋4)
男 3.492(－1)
女 3.453(＋5)
世帯数1.232(＋2)

農業振興地域の指定

ゆれ動く農政時代をどう進むか

昨年の秋から「農業振興地域整備法」が施行されましたが、鮫川村はこの法律に基づく振興地域に知事から指定される見通しとなりました。

農業振興地域制度といわれるこの制度は、都市側の新都市計画法に対して、農業側の領土宣告立法ともいわれております。

即ち「この地域は農業の振興を図ることによって今後とも発展して行く地域である」と宣言するわけです。

そして近代的な農業を行うことができるように、土地基盤の整備（土地の交換分合、圃場整備など）農地保有の合理化、農業の近代的施設などを十分備えるように総合的に進めようとするものです。

米が多量に余る事態を転機として、日本の農政は一八〇度の方向転換をせまられております。

米の生産調整を前にして全国の農村には不安とあせりがありますが、農業によって住民の経済と生活の安定を図つて行かなければならない地域では、よく衆知を集めて真剣に検討し、農業振興地域制度を活用して今後の進むべき方向を確立すべきであるといわれています。



成人のよろこびと社会人になる心のときめきを感想文に語る女性代表のひとり。晴れの和服姿がうつくしい。



阿武隈山系開発の構想をかためる資料調査のため、農林省と農政局の係官が青生野和牛協業組合を視察しました。

入学前の子供のしつけ

新入生の保護者へ

まもなく春が訪れ入学期になります。

環境が違うと、なれるまで子供さんは大変苦痛を伴ないますから入学前に次のようなことをしつけておき、よろこんで学校に行くようにして下さい。

◉用便は一人でできるようにし、用便の後や、食事の前には必ず手を洗うようにして下さい。

◉毎朝登校する前に、便所に行くように習慣づけて下さい

◉昼は給食になりますのでパン食、ミルクになれるようにして下さい。

◉道路は必ず右側を歩くように教えて下さい。

◉自分の持物には必ず名前をつけてやつて下さい。

◉自分の名前が呼ばれたら、「ハイ」と返事ができるようにして下さい。

◉自分の名前はひらがなで、たて書き、横書きがよめるように教えて下さい。

◉数字は、ひとつからとおまで数えたり、書けるよう指導して下さい。

◉お父さん、お母さんの名前や自分の部落の名を言えるようにして下さい。

◉耳だれやトラコーマなどの病気は入学前に治療しておいて下さい。

◉学用品は学校で一括購入するものがたくさんありますので、学校からの話しがあつてから準備をするようにして下さい。

◉名前は、赤ん坊のときからのくせで略している家庭もあるようですが、正しい名前で呼ぶよう注意して下さい。

◉子供には先生はこわいとか先生におこられるとかは、絶対に教えないで下さい

文芸クラブ発会

昨年十二月六日鮫川村公民館で、鮫川文芸クラブ発会式があり、クラブ会長と鮫川短歌会々長に杉山忠男さん、また鮫川俳句会と俳句会を開きました。第二回は一月二十四日に開きました。



火災季節を前に実戦さながらの消火訓練

新春詠草

精農のあの人もまた吏員となり米生産減のパーセントを示す　中川西 好幸

この部屋はたれが居なくも朝夕に用をたしゐて気分はよろし　松本 健治

我が友の賀状が年にへるを見て老づく已が心さびしく　国島 馬笑

高台に統合中の基礎を打つ監督の声は木枯に透る　金沢 継緒

今年伸びし小杉の芯は青々と光をもちて秋ふかみゆく　鈴木 一樹

柿の葉の散る縁側に歩みきてわれしみじみと秋を味わう　湯座 ミキ子

亡き母が通い給ひし野辺に佇ち母が好みし吾亦紅手折る　高坂 尹

日直に急ぐ雪路に人もなくまだ覚めやらぬ元旦の里　森 米子

流れ澄む底石の間にかじか突く郷愁の川は日に汚れゆく　杉山 忠男

教育行政功労者表彰
光栄の水野義包教育長



政功労者として県から表彰されました。

昭和四十四年菊花かをる文化の日に、本県教育文化の向上に献身的に貢献された功労者の表彰が県営体育館で行なわれ、本村では、水野教育長が昭和三十一年十月一日教育長に就任以来十三年（四期）にわたり教育の振興につくされた功績により、地方教育行

地域集団電話
全村開通

かねて建設工事が進められていたわが村の地域集団電話は、去る一月二〇日に五二〇戸に開通し、加入者は第一次分と合せて九五八戸となりました。これで電話普及率は一般加入電話を含めて九一、七％となり今後住民の生活、文化の発達に果す役割は大きく期待されるようになりました

◉集団電話から市外通話を申し込むとき。
「０２」を廻すと石川局の交換手がでます。
◉集団電話から一般電話へ通話するとき
「００」を廻すと鮫川局の交換手がでます。
◉地区外の集団電話と通話するとき。
「０」を廻してから相手の番号をダイヤルして下さい
◉電話の長話はやめましょう



米の生産調整について

村長　石田卯子八

農村と農業者にとつて招かざる客である「米の生産調整」が、いよいよやつてくることになりました。

このことは農政の不在ともいえるし、無計画生産のむくいともいえますが、避けることのできない冷厳な現実を無視することはできません。

米穀需給の動向を見ると、昭和三六年度から四〇年度までは、国内生産量が総消費量より少く、米は不足していたのであります。

それが昭和四一年度から豊作が続き、反面消費量が漸減してきたため余剰米が古米、古々米となつて持越すようになりました。

四三年度の持越量が五五四万三千トンとなつていますから四四年度の持越しは、併せて政府売却量の一ヶ年分を相当越える数字になります。

このままの趨勢で行けば、政府米を収容する施設もなく古い米の損傷は甚しくなり、食管法の維持ができなくなるという事態に立ち至つたのであります。

ここまで追いつめられた責任は当然究明されるべきであるが、これを座視して破局を招くことは更に出来ず、窮余の策が、生産調整となつたのであります。

新聞などの報道によると、今年は一五〇万トンを調整する。内一〇〇万トンを作付転換などで減反――減産する。五〇万トン分は水田の買収によつて調整することになるようです。

一〇〇万トン分の作付転換は、国から各都道府県に目標が割当られ、県はこれを一定の基準に基づいて市町村に割当てることになります。

わが村に対しても相当大きな面積の作付調整を求められるものと思います。

いまのところ何れも案のままで、このような施策の遂行が迫つている現実を理解しながら、今後にのぞむ心構えをもたなければならないと思います。

われわれは、転作補償の奨励金を現実に見合うように引上げることや、転換作目の価格支持政策を強く打出すことや、転換の技術指導を強化することなどを強く要望してはおりますが、自主調整であるというこの施策を有効且つ適切に受け止めるためには、十分対策について検討しなければなりません。

特にわが村のような湿田地帯では転換作目も限定されるし、容易なことではないのであります。

先づ現在の水稲以外の主作目に追加拡充する形で水田を転換する方法が考えられますがこの場合は畜産養蚕など地域によつてはたばこ、こんにやくの規模拡大が考えられるでしょう。

林地、樹園地への転換温水池、養魚なども考えられますが、協業、協同で或る程度の規模にならないと産業としてはなりたち難いのであります。土地改良事業を春夏秋の稲作期間に行なう「通年施行」も有効な目標消化といえるようです。

また、減反に伴なう余剰労力活用のための農村工場の誘致も進める必要があります。

いずれにしても、わが国農政初まつて以来の難関というべく、慎重を期したいものであります。（二月二日記）



祝福をよろこびをする成人のよろこび

婦人の意見発表大会
家庭婦人の悩みも希望も……

鮫川村婦人団体連格協議会の主催で、去る一月三十日、鮫川村公民館に百余名の会員が集まり、「婦人の意見発表大会」が盛大に開催されました。

まず県民の歌の合唱、佐藤会長のあいさつ、石田村長、大楽公民館長の祝辞があり、各地区を代表して次の方々から主婦の悩み、グループ活動交通事故の災難にあつた体験農山村の実態と政府の減反政策に対する批判と問題点など農村婦人が日頃考えている問題や意見が発表されました。次に質疑応答、話し合いを中心に、会が進められ、最後に石田村長からまとめを兼ねて村として今後進むべき方向などについて指導があり、盛会のうちに会を終了しました。

当日の発表者は次のとおり。

◉農家に稼の少ない原因と娘を持つ母のなやみ
西野代表　高坂　ミチ
◉いろは会の活動について
西山代表　阿久津ナツ
◉交通事故に思う
中野代表　芳賀　光子
◉部落農業経営の実態について
東野代表　森　チカノ
代理　中川西ヒサノ
◉これからの農業
渡瀬代表　山形　マチ
◉農業に一生をささげて
青生野代表　岡部タカ

続いて、教育映画「こころの山脈」の原作者、岡部司先生から映画製作にまで進んだ経緯と、本宮方式の本質、および映画の概要を聞いたあと約二時間に亘つて映画を鑑賞し、岡部司先生と三十分程「親と子」について話し合いをもち、有意義な一日を過しました。

おめでた

十二月
鍬木田　国島　教光父義　磨
岫　長　矢吹かおり〃静
余所内　関根　静子〃功　男
岩野草　坂本真由美〃忠　雄
鍛木田　添田美和子〃剛　弘
蔵　平　星　幸男〃宗　一
一月
上　高坂　香父盛　栄
官　代　前田喜美枝〃正　喜
彦次郎　西戸　明美〃民　彦
越　虫　星　正和〃栄
菅野目　大竹　洋美〃洋　喜
彦次郎　青戸　寿之〃孝　夫
青生野　生田目次男〃勝　利

おくやみ

十二月
茅　白坂　マツ83　喜　英
青生野　三瓶　マサ73　春　男
一月
西野内　松本　定次66　定　吉
押野　藤田　ケサ65　幸　光
大塩　水野　テル89　昭　也
新宿　南条　政春66　仁　孝
田中　国井　キチ79　万之亟
田尻　青砥　ヨシ73　貞　己

議会だより

第十三回定例会は十二月十五日に招集され、十七名（欠員一名）の議員が出席し、会期を一日間とし次の四件の議案を原案どおり可決しました。

◉議案第五十一号　職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

ベースアップにともなう職員給与を改正する条例です。

◉議案第五十二号　職員の有給休暇に関する条例の一部を改正する条例

従来は遅参、早退として扱かわれてきたものを一時間単位として有休に繰入れる条例です。

◉議案第五十三号　昭和四十四年度鮫川村一般会計補正予算（第七号）

県支出金五百四十七万三千円、村債三十万円に減額分もあつて五百七十四万四千円の財源で、選挙費四十一万四千円、稲作特別対策事業費補助金五百一万七千円、第二次農構事業コンサルタント負担金十万円、トラクターショベル借上料二十四万円等が補正され、不足分は予備費より八十一万二千円が充当されました

◉議案第五十四号　国有林野整備臨時措置法による払下林野の所有権移転について、

石井草地内の村有林四九六〇九㎡（五町七歩）を、中川西一美さん外六名の方に所有権を移転するものです。

全員協議会

一月八日に十六名（欠員一名、欠席一名）の議員が出席して開かれ、四十五年度予算編成を前にして村長より基本方針を聞き、議員よりそれぞれ要望が出されました。



消防出初め式



恒例の消防団出初式が、一月六日午前九時から役場前広場に幹部七六名が出場して行われポンプ自動車の分列行進通常点検、水勢試験等があり社会の安寧維持に奉仕する消防団員の意気軒昂なところを披露しました。

席上次の優良団員、無火災分団（三年以上）一般功労者の表彰が行われました。

、優良団員

規律厳正、勤務に精励し消防業務に成績優秀な団員

（第一分団）板橋　源良
（第二分団）高坂　久男
（第三分団）松崎　清次
（第四分団）蛭田　康之
（第五分団）鈴木　禧穂
（第六分団）岸波　竹雄
（第七分団）長久保光市

二、無火災分団

第二分団（西野）四ケ年
第五分団（東野）四ケ年
第一分団（中野）三ケ年

三、一般表彰（消防功労者）

西野字酒垂　石井　市作
西野字前折戸　霜田　幸雄
中野字道少田　鈴木　一利
中野字新宿　小松　誠一

四、感謝状贈呈

前　団　長　前田　照
前第一分団長　金沢　利雄
前第二分団長　高坂　精一
前第四分団長　芳賀　文雄
前第五分団長　斉藤　平四
前第六分団長　石井清重郎
前第七分団長　岡部　文雄

（消防業務協力者）

東野字広畑　円井　重雄

火災期が近づきます

わが村の火災は、これまで二月、三月から四月の春先にかけて多く発生しています。

原因もコンニヤク室、冬がこいのワラ、子供の弄火などが多いので十分注意しましょう。

山火事の出る季節にもなります。タバコの火に注意して下さい。

児童のかにともしびを

鮫川小学校に念願の校歌

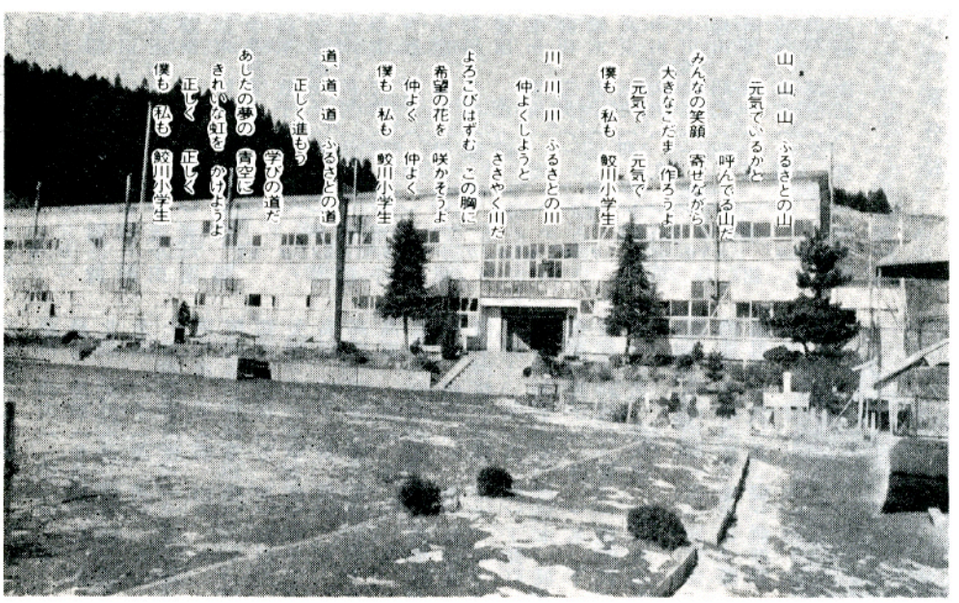
創立九十周年の歴史をもつ鮫川小学校に校歌を制定したいと、PTAなどで協議されていましたが、このたび同校の出身で現在横浜市に建設業不動産業を営んでいる、高木伝さん高木行雄さん高木康平さん松崎巌さんから四十数万円の寄付があり、立派な校歌ができました。

二月十八日には鮫中体育館で盛大な発表会があります。

村立鮫川小学校

校歌

作詞　内海　久二
作曲　古関　裕而



まずゆずれ
これが無事故に
続く道



文芸作品の募集

文芸を愛好することは、心に豊かなうるおいとはりを持つことでり、作品を残すことは、人生に大きな意義をもたせることだと思います。

短歌、俳句とも毎月発表された作品をまとめて来年度末に年間歌集、句集、を編集して発刊したい計画もあります同好の士及び初心者の参加を希望します。会では添削、比評など親切な指導を致します

短歌、俳句二月例会

◉とき　二月二十一日午後一時より

◉ところ　鮫川公民館日本間

◉出歌句数　各十首（句）

◉作品〆切　二月十八日

◉提出先　鮫川公民館内

建物公売のお知らせ

一、公売物件＝東白川農商高等学校鮫川分校旧調理室。

二、構造＝木造、亜鉛鉄板葺平屋建

三、坪数＝八九、一㎡（二十七坪）

四、公売、入札の日＝昭和四十五年三月七日午前九時

五、公売、入札の場所＝東白川農商高等学校鮫川分校

（詳しいことは、鮫川分校に問い合せて下さい）

グループ紹介 (9)

いろは会

西山字折戸

私達のグループは、昭和四十二年九月みんなの話し合いにより、一年中仕事に追われている私達主婦が、いくらかでも余暇を利用し各家庭の交流をはかると共に、婦人の教養をも高めようとしてつくられたもので、名前は「いろは会」です。

会員が十三名で会長一名、副会長一名、庶務、会計、連絡員となつております。任期は決めませんでしたが、各自がいろいろな経験をするのも良いではないかと、今年より一年づつに決まりました。

会費ですが初めは百円づつ集めましたが、農協のお世話でじやがいも一俵づつ納め一人五百円、十三名で六千五百円の資金が出来ました。それが集会時の茶菓子代とか又は講師の謝礼等に使われております。

次に事業計画ですが月一回程度、農繁期は休んで農閑期には月二回位と決められております。内容についてはその都度決めるか、又役員さんに一任しております。

昨年の事業内容は家計簿の記帳、古衣の改善、編み物、料理講習、これからの農業経営の講話、除草剤の使い方、出穂前の稲の管理、野菜つくり講話、村会傍聴等でした。

場所は役員さん宅を廻りにしております。又研修旅行もいたしました。年に一回は温泉にひたりながら一年間の反省をしています。

今までは農事と家事に追われ、なかなか勉強も出来ず、研究をする考えもなく過ごしてきましたが、近くで気軽に勉強ができるとみんな喜んでおります。

こうした会ができましたのも主人方が協力的で御理解があるからと感謝しておりますこれからもますます「いろは会」を通じて生活の改善、家計の改善を図り明るく楽しい家庭、住みよい部落づくりにと知識を広め、どれだけでも農業経営の支えとなるように努力しましようと、会員一同大いに張り切つております。

（阿久津ナツ）



家庭バレーボールをたのしむ「いろは会」の会員

四十五年度 新入学児童

◎青生野小学校

児童名　保護者　住所

藤田　留男（勘次郎）青生野
大森　敏雄（共　衛）〃
石井　弘子（重　春）〃
岡部　正江（勝　正）〃
瀬谷　祐治（政　義）〃
平久江トメ子（三　郎）〃
平井江幸子（勝　雄）〃
長久保和浩（一　進）〃
長久保弘江（光　市）〃
岡部かおり（昭　男）〃
笹島みどり（正　見）〃
中島　洋子（文　雄）〃
中島　悦子（三　次）〃
星　　隆（俊　一）〃
大森　幸子（光　枝）〃
新妻　勝幸（貞　夫）〃
男六名、女一〇名、計一六名

◎渡瀬小学校

赤坂　浩幸（幸　猪）木之根
賀　里美（昇一郎）上耕地
芳賀　早月（正　昭）〃
千葉　彦人（好　子）〃
山形　章彦（浩　一）中　山
鈴木　敏和（実　）福　原
下重美代子（兼　市）田　尻
高久　秋子（友　義）〃
蛭田　精二（昌　一）〃
下重　昭雄（正　）田野上
寺島　正子（正　利）江竜田
松本　広美（幸　典）関　下
蛭田みゆき（梅　雄）関　口
藤田　　工（定　男）〃
小松　育子（末　男）大戸中
小松伊佐子（武　男）〃
下重久美子（金治）関口耕地
蛭田タツ子（安　雄）越　虫
菊地由美子（晴　光）〃
野内　旭（喜　一）〃
松岡　翠（久二郎）〃
根本　幹雄（勝　）〃
男一〇名女一二名　計二二名

◎富田小学校

岸波　正彦（竹　雄）中　沢
鷺野谷春子（敏　男）彦次郎
赤坂　峰子（虎　男）〃
岡部　忠男（義　恵）鍋木田
緑川　貞義（義　春）〃
坂本　孝則（重　徳）〃
男四名、女二名、計六名

◎鮫川小学校

五十嵐孝代（大　一）新　宿
湯座美和子（二　衛）〃
鈴木　洋子（和　光）〃
白井真由美（三代吉）〃
緑川　成生（正　昭）道少田
鈴木　一徳（　一　）〃
矢吹　浩美（利　已）宿ノ入
酒井　光子（国　光）二本田
矢吹比佐子（　博　）大　塩
矢吹　健治（　啓　）〃
矢吹　栄（　隆　）〃
金沢真由美（正　男）前　田
金沢　美樹（利　雄）〃
矢吹としえ（堅　寿）宮　沢
矢吹　浩義（義　郎）〃
五十嵐美智子（伝美）〃
渡部　文子（寅　蔵）強　滝
生田目浩次（義　也）辺　栗
渡辺　隆一（邦　夫）道少田
藤田　正弘（正　美）新　宿
杉木　妙子（貞　治）広　畑
中井美香子（光　徳）〃
窪木　敦子（雅　夫）〃
矢吹恵美子（勝　義）芦ノ草
鈴木　幹男（作　衛）蔵ノ章
鈴木　文雄（辰　弥）草　牛
斉藤　洋子（　勇　）〃
味原　春枝（伊佐美）内ケ竜
羽田　孝雄（義　美）〃
蛭田　　茂（四　一）〃
宗田　里美（　稔　）〃
蛭田　三男（一　二）〃
鏑木　悦子（正　昭）〃
高坂　竜男（卯　平）前　田
中川西久男（　久　）石井草
中川西里美（一　郎）〃
塩田　昭義（昭　一）〃
岡部　清一（　宏　）前　沼
吉保　広幸（　勝　）〃
青戸　博美（文　雄）〃
近藤　次江（　清　）内ケ竜
男二〇名女二一名計四一名

◎戸草分校

溝井　美幸（信　雄）大　竹
岡部　光二（　一　）戸　草
男一名　女一名　計二名

◎東野分校

有賀百合子（忠　男）大石草
芳賀タケ子（幸　男）大石草
生田目順子（清　治）〃
森　　隆弘（一　一）遠ケ竜
吉田　幸子（元　美）大　房
白坂　洋子（タ　ケ）檜久保
鈴木　朱美（　武　）大石草
男一名　女六名　計七名

◎西野小学校

藤田　利夫（　清　）茅
緑川　義勝（多気志）仁　田
北条　弘美（正　敏）岫　長
北条　広子（照　男）〃
上田八重子（佳　一）滑　石
阿久津　孝（国　市）〃
阿久津　勝（秀　勝）〃
霜田　勝彦（芳　美）前折戸
矢吹　幸一（幸　也）〃
高坂　純子（幸　男）上
高坂　善知（盛　栄）〃
高坂　　明（　博　）西
鈴木　光男（正　利）浅屋敷
矢吹　明男（一　明）前塩倉
増子由紀子（義　兄）〃
吉田　弘（喜　栄）下野町
藤田　久子（英　昌）本　坂
須藤美佐子（　啓　）名　下
増谷　利明（　猛　）荻野沢
男一三名　女六名　計一九名

◎西山小学校

関根　幸雄（章　雄）押　野
緑川　登（友　安）前押野
水野　守（弘　幸）宝　木
松本　良一（定　吉）西野内
阿久津健男（正　男）折　戸
阿久津健一（作　次）〃
根本　貞男（　勇　）鍛治平
須藤　朋子（福次郎）岩野草
松崎　圭子（甲子雄）〃
松崎　清美（清　次）〃
関根　道夫（一　兄）大　平
関根　邦芳（　清　）〃
阿久津勇子（　貢　）水　口
鈴木　和浩（　誼　）田　中
関根　秋子（乙　夫）戸　倉
高野　恵子（偉　一）発地岡
箭内　良治（利　信）赤　柴
関根　元男（昭　八）〃
関根　　勉（正　照）菅　田
関根　春雄（美　明）〃
水野　　洋（　正　）追　木
生田目加代子（　芳　）大久保
男一五名　女七名　計二二名

この名簿は、昭和四十四年十二月一日現在で村の住民台帳から調査したものです。この名簿にもれている方がありましたら村の教育委員会に御連絡願います。

電話四十二番（公民館内）

花嫁修業の季節学級
たのしい学習が続いている

鮫川研修所を教室として昨年度から村内女子青年のための季節学級を開講していますが、今年度も二十余名の生徒が熱心に勉強を続けています

主として和裁を中心に、これから家庭人となる花嫁修業に必要な課目をそれぞれの講師から学んでおり、勤労青年学園生の学習と共同で学ぶこともあり。生徒たちは毎日の勉学をたのしく続けております。

二月七日には恒例の針供養の行事がもたれ、公民館集会室に来賓を迎えてにぎやかな交歓が行われました。

郡内の町村では青年学級も単独では開けないほど、青年の数が少くなつていますが、わが村の季節学級の盛んな姿は他町村から驚異の目で見られています。

この季節学級は三月一杯で今年の学習を終りますが、三月にはたのしい修学旅行も計画されているので、希望にみちた娘さんたちの学習は、こしばらく続くことになります。